

クレシエンス島の闘争

Additional Stories

~ Episode I ~



DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

『クレシエンス島の闘争 8話』
イマラチオ後の
追加ストーリーになります

(服を脱いで「チラへ。何でも答えてあげる」)

「あつ……」

思わず小さな声が漏れた。

急速に酸素を取り込み、鮮明になりつつある頭に

“おばさん”が言っていた言葉が浮かんだのだ。

確かに言ってた。

散々好き勝手してくれたんだから

約束通り、何でも答えて貰おうじゃない。

「なあに？。これ以上もどすならトイレでやってくれる？」

女にしては低く、よくとおる声。

不快そうに眉をひそめながらも、

どこか嗜虐的な笑みを浮かべた

“おばさん”の顔が視界に入る

「……………」

もう全部出ちゃったわよ」

吐き捨てる様に言った。

内心は屈辱と恥ずかしさで、全然穏やかじゃないけど

それを態度に出すのはためられる。

動揺を隠す様に早口で続ける。

「そんなことより、好き勝手したんだから

次は私の質問に答えて貰うわ」

「はああ……。都合の良い頭で羨ましいわあ。

お話をしましうって言っあけてる私に

あなた何をしたか忘れたの？」

本当に……。心底呆れたような“おばさん”の冷淡な声。

「……………」

「いきなり蹴り付けたのよ？」

怖いわあ。気に入らない事は暴力でねじ伏せる。

支配階級の傲慢さを、隠そうともしないのかわあ」

「ちよつ、やめなさいよっ!？」

そんな言い方されたら、私が悪いみたいじゃないっ!？」

「そんな言い方だと、貴方が悪くないみたいじゃない？」

うう……。暴れたのは悪かったかも知れないけど。

けがさせないように加減はしたし……

私にだって言い分はある。

「っ……。いきなり襲ってきて、拉致して、無理矢理犯して。」

そんな相手に大人しく身体を預ける訳無いでしょっ!？」

「襲ったのも、拉致したのも、犯したのもラムザでしょ？」

何で私が責められるの?」

ぐっ……正論。

でも、誤魔化されないんだからっ!？」

「貴方の命令でしょっ!？」

「……んもう。あの子が私の言う事、素直に聞くようなら

こんなことになって無いわよ」

……?……どういう事?……

私たちがあのトラ男に襲われたのは、

この人の命令じゃ無いの?

困惑している私にかけられた言葉は、意外なものだった

「まあ、いいわ。」

隠さないと困る様な事は何も無いから

答えてあげても良いのだけれども……」

「っ!! あっ……じゃ、じゃあ……」

「ふふ……。でも、それじゃあなたに都合が良過ぎない?」

「……………」

嫌な予感しかない…………。

で……私のそれは割とよく当たる。

「ふふ、あなたのお口、存外良かったわ。」

イマラチ才や嫌々奉仕させるだけってのはもったいないわねえ」

「な、何が言いたいなの?」

解かりきっている事をすぎる様に

聞き返してしまう自分が恨めしい。

「取りあえず…………」

お口で奉仕して貰える?」

「っっ!…………何でそんなまねっ!？」

「今、私……エッチな気分なの。」

スッキリしたらいろいろ話してあげても

いい気分になるかもしれないわねえ?」

「っっ…………」

口での奉仕なんて何でも無い。何でも無いんだから…………。

“あの人の手掛かりがつかめるなら

何だって耐えられる。で、でも…………。

「嫌なら別にいいのよ。無理矢理じゃ意味ないから」

冷たい声。

続けられた言い草は、私に覚悟を決めさせるのに十分だった。

「まあ、あなたの目的なんて、結局その程度って事でしょ？」

「ちよつ……まつ……ちよつとまつて……」

す、する……するから。

約束よ……その、口でしたら……」

「ええ。何でも答えてあげる」



ふふ……♡
萎えちゃったから
ひとま
—先ず元気にして
貰えるかしら？

ズン



ううう……
うう……くさ……
ううう……
酷い……臭い……

ハハハ



んもう……失礼ねえ……

というかあなたの
せいでしょう？



ほらあ……♡

あなたが出した
色んなお汁で
汚れちゃったんだから……

さっさと
綺麗にしなさいよ

おわ

おわ

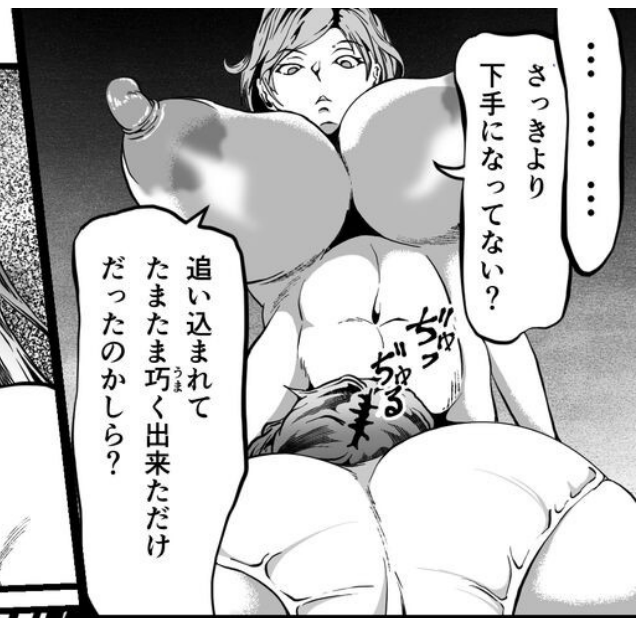
フニ

フニ

うっ……!?

うぐうっ!!







んおっツツ!!
んひっ♥♥!?

んおっツツ!!
んひっ♥♥!?

んおっツツ!!
んひっ♥♥!?

ちよあつ!
入ってるうっ!?...舌あつ!
入ってきちゃっためえっ!!

んぎっ!...っつ
いったあ♥...
ちよっ!?!?

はっ...歯があたつてゐるわあ♥...
そこお...だっ...めえっ!!

んっ♥♥!
んひいっ♥

いっ♥♥!きっ!!♥♥...
きもっちいいわあツツ!!!

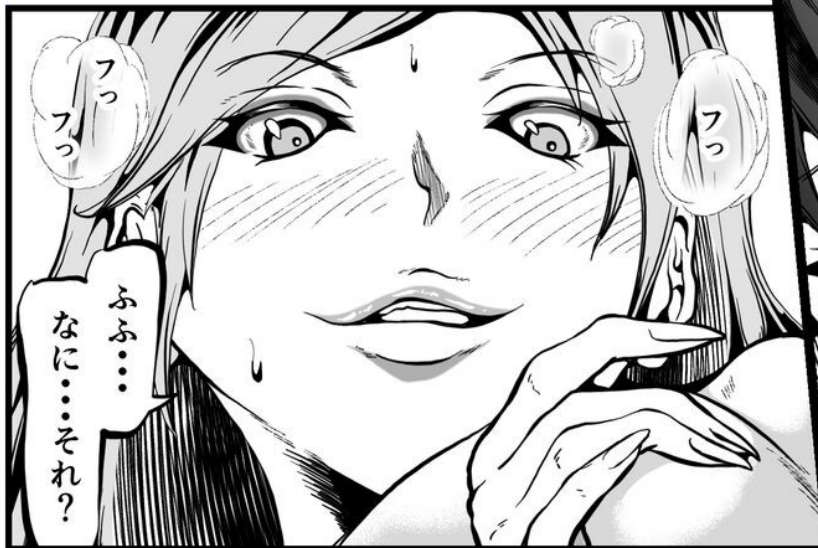
かっ
かっ

かっ
かっ

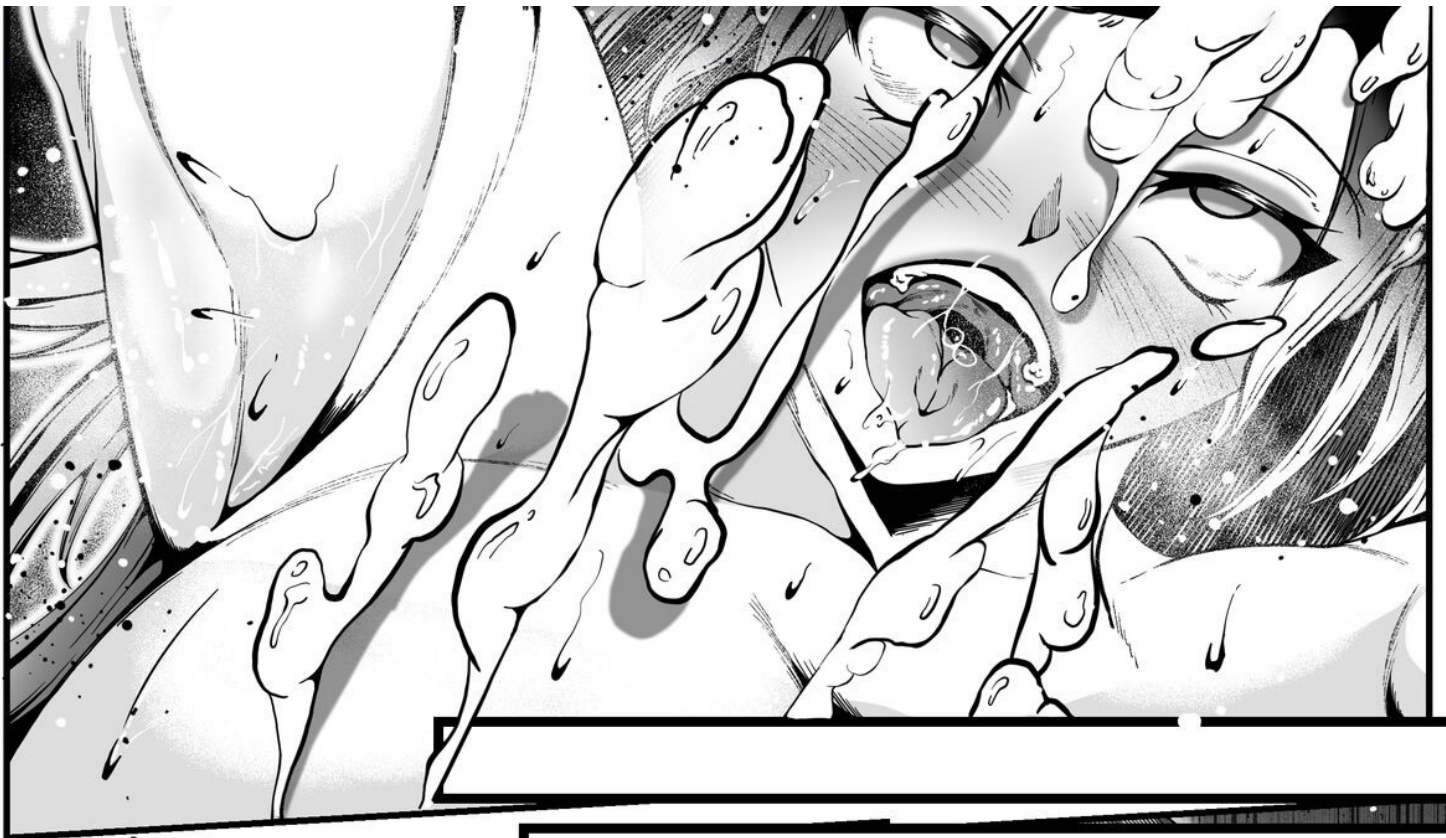
びん

びん









そんなの
貴方次第じゃないっ!?

ツッ!?..
きつたないわねっ!!

貴方がそのつもりなら
もう容赦しないんだからっ!?



ふふ...♡
この程度で
音を上げるとでも...?

私が満足するまで
終わらないのよ?



...じゃあ...
さっさとソレ仕舞ってくれる?

話の続きを
しましょ?

Continuing To Next...

「……続けなさいよ」

腰に手を当てベッドの上に立ち、

ふんぞり返るフタナリおばさん。

いや応なく眼前にソレが晒される。

目を背けたい思いに耐えながらソレ越しに

おばさんの顔を睨みつける。

命令口調が腹立たしい。何様よ？

口ですれば答えるって言ったクセに……。

自分の言った言葉にくらい責任持ちなさいよっ！

「もっつ!!ちゃんと口でしたでしょっ!!? イっちゃったんだから

私の質問に答えなさいよっ!!? 嘔吐きっ!!」

胸の中で渦巻く不満が思わず口をついた。

「なあに? それ?」

スッキリしたら話してあげるって言ったのよ……。

スッキリした様に見えるかしら?」

ビクンビクン♥♥

大量に……2回も射精したにもかかわらず

おばさんのソレはおへそに付くくらいギンギンに

そそり立って物欲しそつにビクビクと震えている。

「つつ……つつ……」

「きたないだの、嘔吐きだの……言いたい放題ねえ?

あなた何か勘違いしてるんじゃないかしら?」

あなた程度……力づくでどうしても出来るのよ?

なのに……その可愛げの無い態度はどうしたのかしら?」

悔しいけど力の差は理解している。

反抗的な振る舞いが利口じゃないってことも……それでも。

「……わ、私は……暴力に屈したりは……」

それでも、この人の言いなりになるのは抵抗がある。

理屈じゃない。本能が警鐘を鳴らす。

暴力、権力、そんなものとは無関係に

この人……なにか……すごく危ない……。

「暴力に屈しないって……。頭悪そうね? それ……。

まあいいんじゃない? あたなは、それで。

そうじゃなくて……私に聞きたいことがあるんでしょっ?

無理矢理口を開かせる力が無いなら

人に物を尋ねる態度というものがあると思うのだけれど?」

「つつぐ……」

その通りだと素直に頭を下げて聞いても、

あなた絶体答えないじゃないっ!?

私の心中などお構いなしに、おばさんは続ける。

「別に私はね

あなた自身にはそれほど興味が無いのよ。

ちよつと面白そうなおもちや程度つてくらいかしら。

少し遊んであげても

良いわよって言うてるだけ……。

嫌なら無理にしなくても良いのよ?」

私が拒めないことを、分かてるクセに……。

ほんと、質^{たち}が悪いわね。

「分かったわよ。

続ければいいんでしょう?」

きゅっ、と口を結び覚悟を決める。

何を言っても結局この人は私に奉仕させたいんだ。

「続けるけど……。

すつきりとか、満足とか……抽象的なんだけど?

要は起^たたなくなるまですれば良いの?」

キツチリ言質を取つとかなきゃ

萎えてもまだ満足してないなんて、

難癖付けられたらたまらない。

「んん? そうね……じゃあ、1回で良いわ♥」

出し抜けに放^{はな}たれた言葉が理解できないでいる

私におばさんが続ける。

「あと一回、私を射精させたら

ご奉仕は終わりにするし、質問にも答えるわ」

いつかいつて……1回?。

あと一回イかせたら終わり?そんなの……。

「んふ♥簡単すぎる?」

んふう♥♥実は「レ能力で生やしてるのね」

いきり立ったソレを自慢げに突き付けてくる。

少しは恥じらいなさいよっ!

「とりあえず私を馬鹿にしてるのは分かったわ。

それで？」

ほんとハラたつ。何が実は……よっ！

当たり前じゃないっ!!

それ以外どうやってそんなモノ急に生やせるのよ。

「ふふっ♥望んで付けてるのだから

わりと制御出来るのよね……。

勃起とか射精とかを、ね♥」

女の私じゃよく分からないけど

2回、精を放^{はな}つて尚硬さを失わないソレが

普通の男の人のモノとは違うことは分かる。

「結局何？」

いくかどうかは貴方次第ってこと？

そんな人に奉仕して何の意味があるの?」

「ふふ……♥♥

あなたの足りない頭でもすぐに分かるわ♥

口だけじゃなくて思いつく限り

手でもおっぱいでも、どこを使っても良いわ。

ああ……♥♥

おまんこはダメよ♥♥

そっちは後でたっぷりかわいがってあげるから♥」

ああ……そうだったわね。

DSだったわね、このフタナリおばさん。

なるほど、確かに私はおもちやだ。

追い込んで、追い詰めて、壊れるところを

眺めて楽しむための遊び道具……。

「ふふ……あはあ♥♥

苦しくて、つらくて……

お願いだから、もう射精^だしてええつつて

ピイピイ泣きながら土下座するところを

見せてちょうだあいつつ♥♥

あつあゝ♪ 何だったかしら♥

『もう容赦しないっ!!』だったかしらあ？

いいわあ♥♥

全力で来なさいよおっ!!!♥♥」



ゆるんっ

ひゃんっ♡♡♡!!

ちよっ...そこはっ!?

射精させなきゃ
いけないのよっ...!!

そっちは関係
ないでしょおっ!?

なんっなのっツツ!!

グチッ
グチッ

グチッ
グチッ

なんなのか
聞きたいのはコッチよ

おちんちん何回も
イってるクセに
全然出さないって...

んひひっ♡♡♡!!

ひっあああっ!!そこお♡♡♡
きゅもちいいイッ♡!!

ワチレ
ワチレ

ワチレ
ワチレ

おっ♡
おっ♡

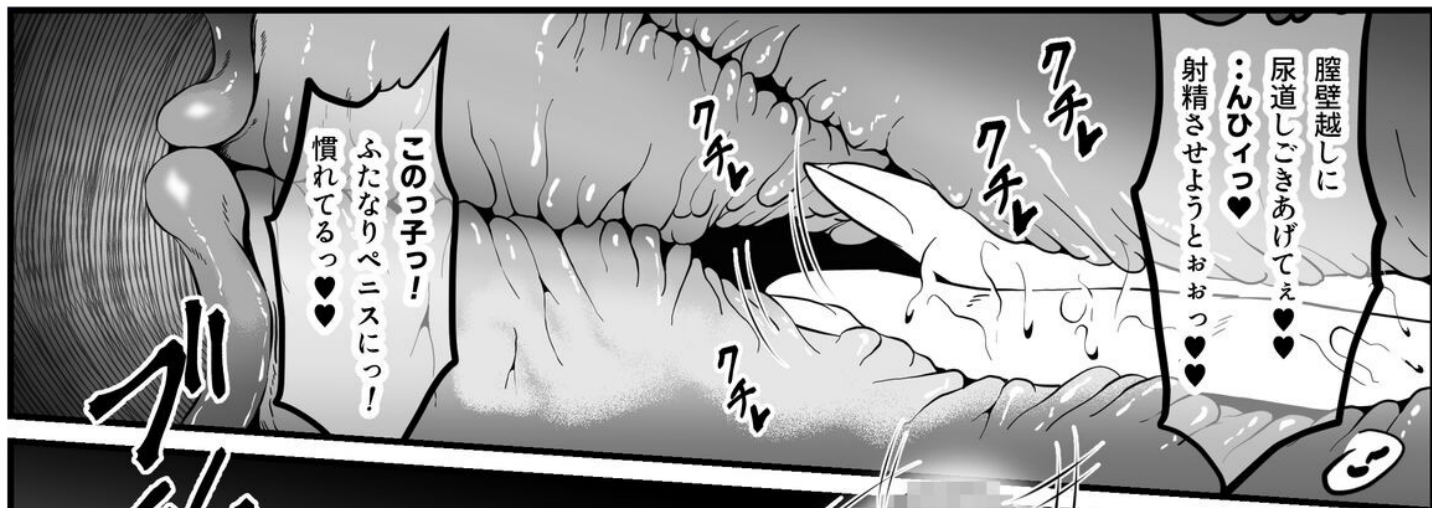
んおっ♡

んおっ♡♡♡

ゴーン

ゴーン

ゴーン



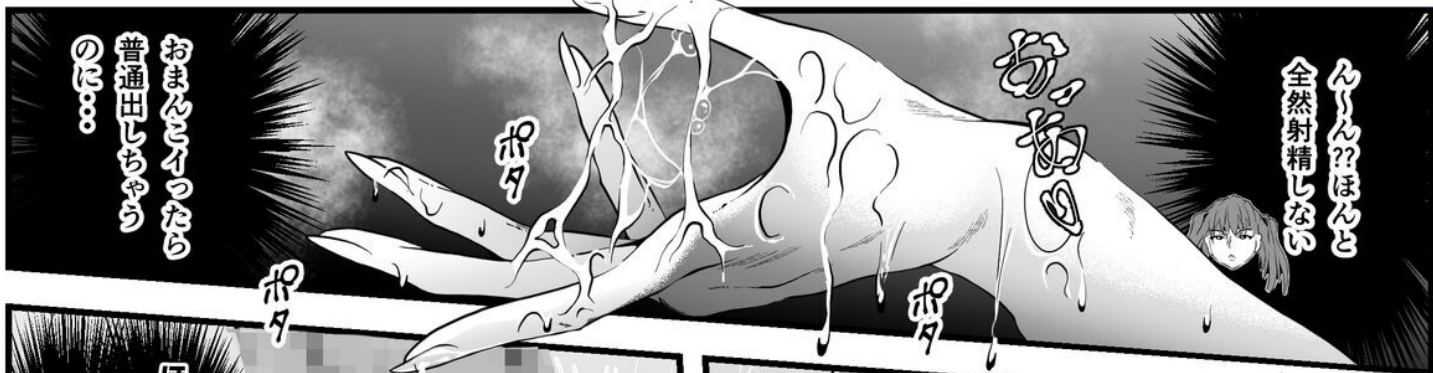
膣壁越しに
尿道しごきあげてえ♡
：んひ♡
射精させようとおおっ♡♡

このっ子っ！
ふたなりペニスにっ！
慣れてるっ♡



ふたなりペニスからあっ!!!♡
ザーメン絞り取るのに
慣れてるうううッ♡♡♡

だめえっっ！イクうううッ!!♡♡♡
イクわっ♡イク♡♡イクイクッ♡♡♡
イっくうううッッッッ!!!♡♡♡



んん??ほんと
全然射精しない

おまんこイッたら
普通出しちゃう
のだ...



ズキッ

んんんんんん

ほんとインチキッ!

何があと一回

射精したら終わりよ!!



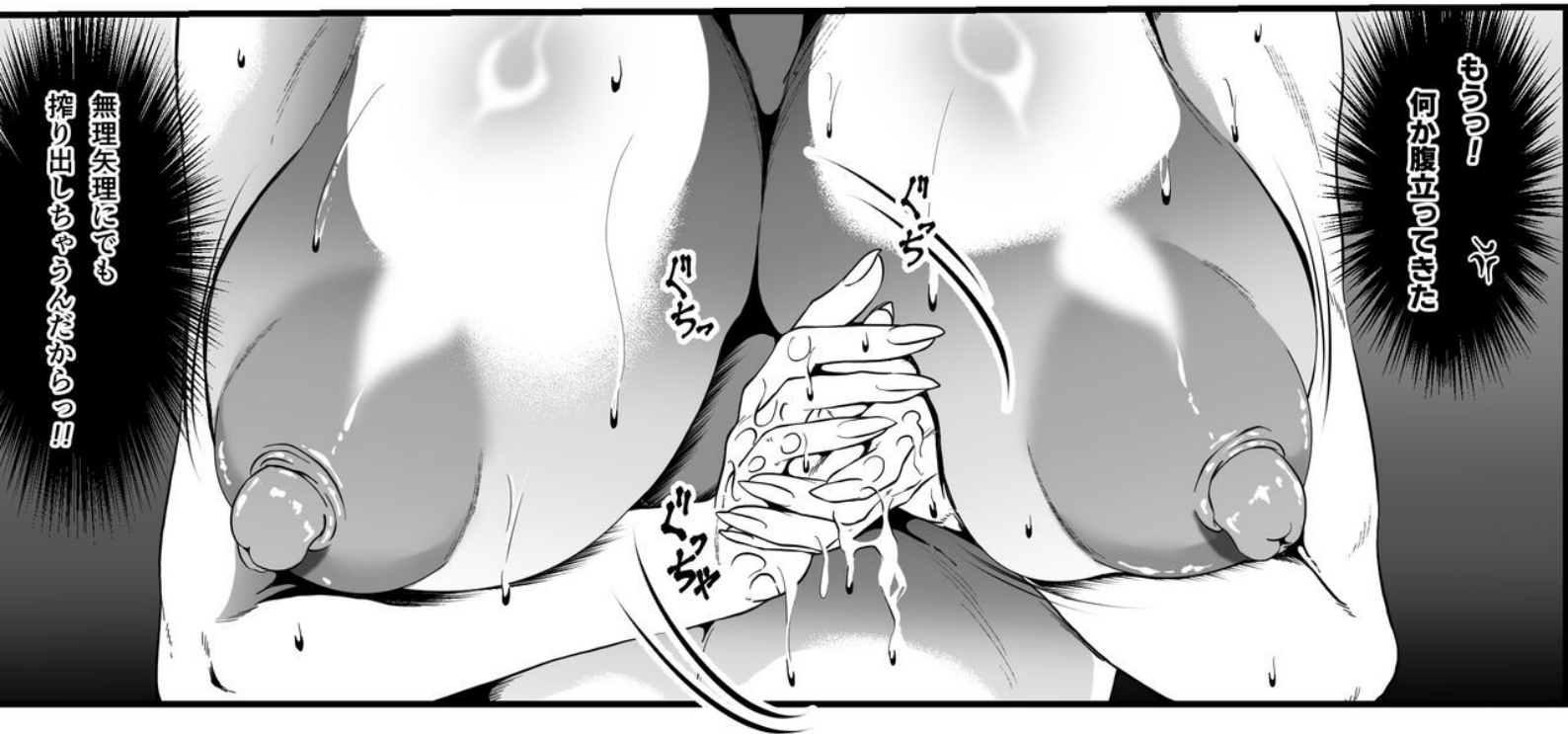
ギューン

イッても射精なら
よむるまのの...

射精すも射精さないも本人の
意志で自由だできるなら...

んんんんんん

いったっ



むっー イ

何が腹立って来た

ぐちん

ぐちん

無理矢理にでも
搾り出したらうんだから!!



単純に…

我慢してるだけなんですよ？

…それが？

だ
射精さない事実が
変らないんだから
結果も変わらないわ…



？…変るでしょう？…

射精自体を自由に出来るなら
無意味に延々奉仕させられる
コッチがしんどいけど…

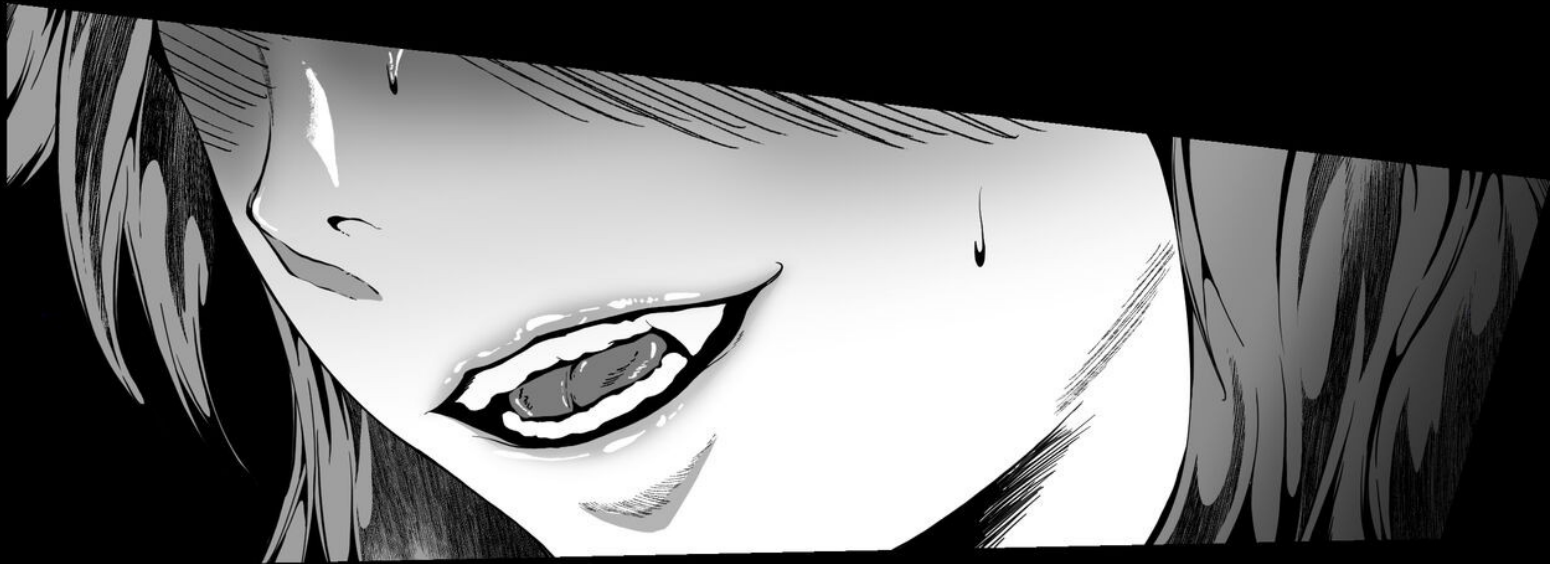
我慢してるだけなら
耐えなきゃなんない貴方の方が
絶体キツイでしょう？





てっせ...

射精^ださないのよね？









言い訳
あるなら聞けど…

あんまり見苦しい真似しないで
素直に負けを
認めた方が良くんじゃない？

Continue
To Main Story...